

2026年度 京都女子大学 一般編入学試験 解答・解答例

学部	発達教育学部	学科	教育学科	コース	
試験科目	小論文				

解答・解答例

I. 解答例

子どもを取り巻く環境は、家庭環境では核家族が増加し、世帯人数やきょうだい数が減少している。また、地域との繋がりも希薄になり、子どもが一日の中で人と関わる人数が減少した。子どもの遊びの環境は、稽古事に通うために遊ぶ時間がない、自由に遊ぶ場所がない、友達と同じ時間を共有することが難しく遊ぶ友達がいないという現状にある。

子どもの遊びは子どもの成長発達に不可欠であり、子どもは遊びの中でやってみたいことを実現し、その楽しさを周囲の人と共有することで自己肯定感を育むことができる。また、遊びは子どもの自発的な活動であり、子ども自らが心と体を動かし、自らが遊びをつくりだし、その喜びを感じるものである。しかし、映像を視聴するという受動的な遊びが増加しているため、遊ばない子どもが増えている。

地域社会や大人は、子どもが自由に遊びを楽しむことができる場をつくり、子どもの権利と人権を守り、子どものよりよい成長発達を支えるという役割がある。子どもの遊びの場は安心して安全な環境のもとで、子どもの好奇心や探究心を保障し、子どもと関わる大人は、大人自身も遊びを楽しむことで、遊びの楽しさを子どもに伝えることができる。

II. 解答例

保育所・幼稚園から小学校への移行期は、子どもにとって生活環境や人間関係が大きく変化する重要な時期であり、心理的・社会的な課題に直面しやすい。

主な課題としては、学習中心の生活への不安、集団行動への適応、自己調整力の未熟さ、新しい友人関係の構築などが挙げられる。これらは「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に示される「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」「思いやり」などの力と深く関係している。

保育所・幼稚園では、幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」として「自立心」や「協同性」を育てている。幼児期の育ちの実態をリアルに捉え、課題を小学校と共有することが課題である。

教育現場では、保育所・幼稚園と小学校の連携を強化し、子どもの発達状況や個性を共有することで、個別に応じた支援が可能となる。小学校ではスタートカリキュラムを導入し、遊びや体験を通じて学びへの意欲を育てることが重要である。また、教師は子どもの不安に寄り添い、安心して自己を表現できる環境を整えることが求められる。さらに、保護者との連携を図り、家庭と協力して生活習慣や学習習慣の定着を支援することも不可欠である。